



図② 受講前後のスコア

自に作成したファシリテーション能力 10 項目 (説明・司会・統率・信頼・予測・理解・情緒・調整・企画・分析) からなる VAS による自己評価「ファシリテーター自己診断票」(図①) を実施した。

2. 結果

受講者は全国 15 ヵ所、2 年間合計で 1,038 名であり、受講者は看護師・医療ソーシャルワーカー・心理士らが多かった。

サイコオンコロジーに関する知識を問う質問票のスコアを、前後で比較した。そのうち大分・青森での講座参加者の結果を図②に示した。他のどこの会場の受講者も、同様に平均点は有意に ($p < 0.01$) 増加し、この養成講座には、一定の知識としての教育効果があることがわかった。

自己診断票に記入した参加者総数は 532 名だった。10 項目の得点を用いた因子分析 (最尤法、バリマックス回転) の結果、固有値 1 以上の 2 因子の累積寄与率は 55.4% だった。

この 2 因子について因子行列を降順に並べると、第一因子は「予測 (0.667)・理解 (0.617)・調整 (0.617)・分析 (0.607)」が高く、これらはグ

表② 適性試験の因子行列

項目	第一因子	第二因子
適性 A : 説明	0.395	0.569
適性 B : 司会	0.208	0.953
適性 C : 統率	0.524	0.427
適性 D : 信頼	0.387	0.081
適性 E : 予測	0.667	0.300
適性 F : 理解	0.617	0.272
適性 G : 情緒	0.469	0.386
適性 H : 調整	0.617	0.256
適性 I : 企画	0.447	0.312
適性 J : 分析	0.607	0.262

ループワークの過程で生じる参加者間のダイナミクスを調整する力すなわち「人間関係力 (human relation skill : HRS)」とみることができる。同様にして第二因子は「司会 (0.953)」がとくに高く、ついで「説明 (0.569)・統率 (0.427)」とつづくので、これらはグループワークを予定にしたがって進めていく「司会進行力 (ceremonial master skill : CMS)」と考えられた (表②)。

3. 考察

独自のチェックリストにもとづくデータを因子分析したところ、がんグループ療法のファシリテーターには「人間関係力」と「司会進行力」の二つのスキルが認められた。「人間関係力」はグループワークの状況を読み取り、その後に何が起こるかを予想して、参加者のやり取りや関係性から発生する事態を取捨したり展開したりする力のことである。また「司会進行力」は自信をもって司会者としてきちんと説明したり、予定のプログラムを時間にしたがって遂行し、そのための統率力を発揮する力である。一般にファシリテーション論では、コミュニケーション力・プレゼンテーション力・パーソナリティの三つが、ファシリテーターとして必要であるといわれているが、本研究でおおむね前二者についてデータをもってこの一般論を証明できたことになる。ただし本適性試験は自

己評価によるものであるから、正確に言えばこの結果は「得手・不得手意識」か「自己肯定感」を示したデータである。今後、何らかの客観評価あるいはグループ療法時の患者・家族によるファシリテーター役の医療者に対する他者評価などで検討を深めなければならない。また、パーソナリティについても今回検討していないが、本研究班の進める養成講座や、あるいは実際のグループ療法実施の経験などから、医療者のいわゆる「人柄・性格」などによってグループダイナミクスへの対応が異なることも十分に経験している。因子分析における「人間関係力」「司会進行力」の累積寄与率がおおむね50%程度であることは、残りの50%にこうした側面が秘められている可能性を示唆するもので、ファシリテーターの適性とパーソナリティとの関連について今後研究していく必要があると思われる。

「人間関係を調整しプログラムを遂行するスキル」がこのように一応証明されたことは、医療・福祉教育あるいは継続教育・研修のなかでトレーニングが可能であることも示唆している。グループ療法ファシリテーターにとって人間関係力と司会進行力はどちらも大切なスキルであるが、個人差・職種間差が認められることから、「1グループに2人のファシリテーター」を構造の一つとして提案している本研究班では今後、適性傾向の異なるファシリテーターの組み合わせ法やその効果・相互作用などについて検討する必要がある。

おわりに

ファシリテーター養成プログラムの実施を通して、がんグループ療法ファシリテーターにとって「人間関係力」と「司会進行能力」がそのスキルとして重要であることを示すことができた。このスキルには職種による特性傾向の違いがあり、医師はこれについての自己肯定感が高いものの、人間関係力については不得手とする者もあった。心理職はおおむね人間関係力に長けていると判断し

ているものの、その専門職でありながら苦手意識をもつ者も少なからずあった。看護職は多種多様で特徴的傾向はなかったが、福祉職は両スキルともやや苦手意識が強かった。これらのスキルは養成講座の理解度や成績とも関連し、また療法の実施にあたっては個人や職種によるスキル特性を考慮したファシリテーション・チームの編成なども検討する必要が示唆された。

文献

- 1) Spiegel D, Bloom JR, Kraemer HC *et al* : Effect of psychosocial treatment on survival of patients with metastatic breast cancer. *Lancet* ii : 888-891, 1989
- 2) Classen C, Butler LD, Koopman C *et al* : Supportive-expressive group therapy and distress in patients with metastatic breast cancer : a randomized clinical intervention trial. *Arch Gen Psychiatry* 58 : 494-501, 2001
- 3) Goodwin PJ, Leszcz M, Ennis M *et al* : The effect of group psychosocial support on survival in metastatic breast cancer. *New Eng J Med* 345 : 1719-1726, 2001
- 4) Kissane DW, Grabsch B, Clarke DM *et al* : Supportive-expressive group therapy for women with metastatic breast cancer : survival and psychosocial outcome from a randomized controlled trial. *Psychooncology* 16 : 277-286, 2007
- 5) Fawzy FI, Cousins N, Fawzy NW *et al* : A structured psychiatric intervention for cancer patients. I. Changes over time in methods of coping and affective disturbance. *Arch Gen Psychiatry* 47 : 720-725, 1990
- 6) Fawzy FI, Kemeny ME, Fawzy NW *et al* : A structured psychiatric intervention for cancer patients. II. Changes over time in immunological measures. *Arch Gen Psychiatry* 47 : 729-735, 1990
- 7) Fawzy FI, Fawzy NW, Hyun CS *et al* : Malignant melanoma : effects of an early structured psychiatric intervention, coping, and affective state on recurrence and survival 6 years later. *Arch Gen Psychiatry* 50 : 681-689, 1993
- 8) Fawzy FI, Canada AL, Fawzy NW : Malignant melanoma : effects of a brief, structured

- psychiatric intervention on survival and recurrence at 10-year follow-up. *Arch Gen Psychiatry* 60 : 100-103, 2003
- 9) Gottlieb BH, Wachala ED : Cancer support groups : a critical review of empirical studies. *Psychooncology* 16 : 379-400, 2007
- 10) Fukui S, Kugaya A, Okamura H *et al* : A psychosocial group intervention for Japanese women with primary breast carcinoma. *Cancer* 89 : 1026-1036, 2000
- 11) Hosaka T : A pilot study of a structured psychiatric intervention for Japanese women with breast cancer. *Psychooncology* 5 : 59-64, 1996
- 12) 保坂 隆 : がん患者への構造化された精神科的介入の有効性について. *精神医* 41 : 867-870, 1999
- 13) Hosaka T, Tokuda Y, Sugiyama Y : Effects of a structured psychiatric intervention on cancer patients' emotions and coping styles. *Internat J Clin Oncol* 5 : 188-191, 2000
- 14) 平井啓, 保坂隆, 杉山洋子ほか : 乳がん患者に対する構造化精神科介入とその影響要因に関する研究. *精神医* 43 : 33-38, 2001
- 15) Hosaka T, Sugiyama Y, Tokuda Y *et al* : Persistent effects of a structured psychiatric intervention on breast cancer patients' emotions. *Psychiatry Clin Neurosci* 54 : 559-563, 2000
- 16) Hosaka T, Sugiyama Y, Hirai K *et al* : Effects of a modified group intervention with early-stage breast cancer patients. *Gen Hosp Psychiatry* 23 : 145-151, 2001

